

■研究基本計画

本研究所では、特別支援教育のナショナルセンターとして、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献するために、国として特別支援教育政策上重要性の高い課題に対する研究や教育現場等で求められている喫緊の課題に対応した実際的な研究に取り組んでいます。

こうした研究活動を中長期を展望しつつ、計画的に進めるため、研究基本計画を策定しています。平成24年2月には、国の政策動向等を踏まえ、平成20年8月に策定した計画の改訂を行いました。

■研究体制

研究活動を組織的に行うために、各年度の研究計画を立案するとともに、進行管理等を行う「研究班」を設けています。研究班は、以下の12の班で構成され、研究課題に応じたチームを構成して研究を推進しています。

平成24年度研究班一覧

研究班		班長	副班長
特定の障害種別によらない総合的課題、障害種別共通の課題に対応する研究班	障害のある子どもの教育の在り方に関する研究班（在り方班）	西牧 謙吾	松村 勘由
	特別支援教育の推進に関する研究班（推進班）	大内 進	柘植 雅義 笹森 洋樹
	ICT及びアシスティブ・テクノロジーに関する研究班（ICT・AT班）	金森 克浩	棟方 哲弥
障害種別専門分野の課題に対応する研究班	視覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（視覚班）	澤田 真弓	金子 健
	聴覚障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（聴覚班）	原田 公人	藤本 裕人
	知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（知的班）	工藤 傑史	涌井 恵
	肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班（肢体不自由班）	長沼 俊夫	徳永亜希雄
	病弱・身体虚弱等にある子どもの特別支援教育に関する研究班（病弱班）	滝川 国芳	西牧 謙吾
	言語障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（言語班）	牧野 泰美	久保山茂樹
	自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班（自閉症班）	小澤 至賢	岡本 邦広
	発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）のある子ども又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（発達・情緒班）	笹森 洋樹	梅田 真理
	重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（重複班）	齊藤由美子	熊田 華恵

■研究区分

本研究所の研究については、以下の区分に従って実施します。

なお、平成 23 年度から、中期目標期間を見通して特定の包括的研究テーマ（領域）を設定し、複数の研究課題から構成された研究を進める「中期特定研究制度」を創設しました。研究テーマとしては「インクルーシブ教育システムに関する研究」、「特別支援教育における ICT の活用に関する研究」を設定しています。

また、専門研究のうち特に重要度の高い研究課題を「重点推進研究」として取り組んでいます。

研究区分	研究の性質
基 幹 研 究	<p>本研究所が主体となって実施する研究で、運営費交付金を主たる財源とするもの その内容等により、以下のとおり区分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門研究 A 特定の障害種別によらない総合的課題、障害種別共通の課題に対応した研究 ・ 専門研究 B 障害種別専門分野の課題に対応した研究 ・ 専門研究 D 専門研究 A、専門研究 B につなげることを目指して実施する予備的、準備的研究等
外部資金研究	科研費等の外部資金を獲得して行う研究
受 託 研 究	外部からの委託を受けて行う研究
共 同 研 究	本研究所と大学や民間などの研究機関等と共同で行う研究

■研究概要

平成24年度に実施する研究の概要は以下のとおりです。

平成24年度研究課題一覧

研究区分	研究課題名	研究班	研究代表者	研究期間
専門研究 A	特別支援学校及び特別支援学級における教育課程の編成と実施に関する研究 〈重点推進研究〉	推進班	滝川 国芳	平成24～25年度
	特別支援教育を推進する学校マネジメントと校長のリーダーシップの在り方に関する研究	推進班	大内 進	平成23～24年度
	インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究 【中期特定研究（インクルーシブ教育システムに関する研究）】 〈重点推進研究〉	在り方班	澤田 真弓	平成23～24年度
	インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別な支援を必要とする児童生徒への配慮や特別な指導に関する研究 【中期特定研究（インクルーシブ教育システムに関する研究）】 〈重点推進研究〉	在り方班	藤本 裕人	平成23～24年度
	デジタル教科書・教材の試作とガイドラインの検証 - アクセシブルなデジタル教科書の作成を目指して - 【中期特定研究（特別支援教育におけるICTの活用に関する研究）】	ICT・AT班	金森 克浩	平成24～25年度
専門研究 B	特別支援学校（視覚障害）における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究 - ICTの役割を重視しながら - 【中期特定研究（特別支援教育におけるICTの活用に関する研究）】	視覚班	金子 健	平成24～25年度
	特別支援学校（肢体不自由）のセンター的機能を活かしたAT活用の促進に関する研究 - ICTの役割を重視しながら - 【中期特定研究（特別支援教育におけるICTの活用に関する研究）】	肢体不自由班	長沼 俊夫	平成24～25年度
	ことばの遅れを主訴とする子どもに対する早期からの指導の充実に関する研究 - 子どもの実態の整理と指導法の効果の検討 -	言語班	久保山茂樹	平成24～25年度
	自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の算数科・数学科における学習上の特徴の把握と指導に関する研究 〈重点推進研究〉	自閉症班	小澤 至賢	平成24～25年度
	高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究 - 授業を中心とした指導・支援の在り方 - 〈重点推進研究〉	発達・情緒班	笹森 洋樹	平成24～25年度
共同研究	墨字と併記可能な点字・触図作製技術を用いた視覚障害児・者用アクセシブルデザイン教材の作製	-	土井 幸輝	平成23～24年度
	弱視児童生徒の特性を踏まえた書字評価システムの開発的研究	-	大内 進	平成23～24年度

上記の他、専門研究 A、専門研究 B につなげることを目指して実施する予備的、準備的研究等に位置づけられる専門研究 D として、(1) 特別支援学校（知的障害）における学習評価、(2) 聴覚障害教育における教科指導等の充実に資する教材活用、(3) 重度・重複障害のある子どもの教育目標、内容の設定及び評価、に関し、単年度で研究を行うこととしています。

●専門研究A

特別支援学校及び特別支援学級における教育課程の編成と実施に関する研究〈重点推進研究〉

研究期間 平成24～25年度

研究班 推進班

研究代表者 滝川国芳

研究分担者 長沼俊夫、柘植雅義、尾崎祐三、小林倫代、原田公人、金子 健、柳澤亜希子、神山 努

概要：

平成22～23年度で実施した専門研究A（重点推進研究）「特別支援学校における新学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方に関する実際研究」では、約1,000校ある全ての特別支援学校への質問紙調査法により、新学習指導要領への移行に向けた時点での、教育課程編成の全体的な実施状況と課題を把握することができました。

本研究では、その結果も踏まえ、研究協力機関となる特別支援学校への継続的な訪問調査により前回の研究で明らかとなった課題である、複数障害種に対応する特別支援学校における教育課程編成、教育課程のいわゆる類型やコース制、高等部における職業教育、交流及び共同学習の教育課程での位置づけ、自立活動と他領域及び各教科の教育課程編成上の関連等について、現状を把握し、当該学校関係者の協力も得ながら、これらの課題解決のための教育課程編成の在り方について検討します。

また、特別支援学校の学習指導要領を参考にして編成することもできる小・中学校の特別支援学級における「特別の教育課程」の編成について検討します。具体的には、教育委員会への質問紙調査や訪問調査により、特別支援学級での教育課程編成に関する手引書等の有無、学校での教育課程編成の手順等について、障害種別も考慮しながら、現状と課題を把握します。

さらに、以上の結果から、現行の学習指導要領に基づく教育課程の編成と実施の状況を総合的に考察し、次期学習指導要領改訂への基礎的資料としていきます。

特別支援教育を推進する学校マネジメントと校長のリーダーシップの在り方に関する研究

研究期間 平成23～24年度

研究班 推進班

研究代表者 大内 進

研究分担者 小澤至賢、小松幸恵、牧野泰美、齊藤由美子

概要：

特別支援学校は、さまざまな障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導と支援が求められており、学校マネジメントにおいても通常の学校にはない視点を付加して対応していく必要があります。本研究では、特別支援教育の推進という観点から特別支援学校における学校マネジメントの効果的な活用に関する知見の提供を目指します。

具体的には、これまでの国内における学校マネジメントの考え方とその実践に関する先行研究や実践事例等を分析し、学校マネジメントに関する知見を整理します。その上で、こうした知見に基づいて、都道府県及び中核市教育委員会、特別支援学校長会等を対象とした特別支援教育の分野に関する学校マネジメントの考え方の活用の実態や取組の姿勢を把握するための調査を実施します。

この調査を通して、学校マネジメントの考え方を活用した学校組織や管理職の学校運営改善などへの取組の現状や課題について取りまとめる予定です。

さらに、本調査結果の分析を通して、先進的な取組をしていると思われる実践校を抽出し、訪問調査を実施します。こうした実態調査や先進的な実践校の取組状況を踏まえて、「学校評価」と関連づけながら「特別支援教育のさらなる推進」、「地域における特別支援教育のセンター的機能の充実」、「特別支援教育担当教員の専門性の向上」等の特別支援学校の重要課題へ対応していく上での学校マネジメントの活用法について取りまとめていきます。

また、海外における特別支援教育と学校マネジメントに関する取組状況とその研究の動向について文献による調査中心に情報収集を行い、我が国の特別支援学校における学校マネジメントの実践に供する知見の提供を目指します。

インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究 【中期特定研究（インクルーシブ教育システムに関する研究）】〈重点推進研究〉

研究期間 平成23～24年度

研究班 在り方班

研究代表者 澤田真弓

研究分担者 松村勘由、伊藤由美、笹森洋樹、大崎博史、久保山茂樹、熊田華恵、横尾 俊、涌井 恵、
庄司美千代、植木田潤

概要：

インクルーシブ教育システムを構築し、それを推進していくには、まずは教員をはじめとして、それに関わる人たちがインクルーシブ教育システムについて理解し、それぞれに必要とされる専門性を確実に高めていくことが大切です。そして組織、地域として専門性を担保していく仕組みが必要です。

インクルーシブ教育システムに関する教職員の資質、能力としては、特別支援学校のみならず小・中・高等学校等における全ての教職員が最低限身に付けていなければならない理念及び障害に対する基本的な知識・技能等や、実際に携わる場合に身に付けるべき専門的な知識・技能等を、経験年次別研修や職務別研修を通して身に付けられるようにしていくことが大切です。

また、校内研修等での教職経験豊かな教員を中心とした教員間の学び合い、支え合いにより、学校内で専門的知識・技能等を受け継いでいくことも重要です。

本研究では、インクルーシブ教育システムの構築及び推進に向け、関係者に求められる専門性の内容を明らかにするとともに、それを踏まえた研修カリキュラム（試案）を作成し、組織及び地域としての専門性の担保の仕組みについて検討します。

インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別な支援を必要とする児童生徒への配慮や特別な指導に関する研究【中期特定研究（インクルーシブ教育システムに関する研究）】〈重点推進研究〉

研究期間 平成23～24年度

研究班 在り方班

研究代表者 藤本裕人

研究分担者 齊藤由美子、玉木宗久、工藤傑史、徳永亜希雄、西牧謙吾、田中良広、海津亜希子、廣瀬由美子、
岡本邦広、柘植雅義

概要：

平成20年3月に告示された小学校・中学校の学習指導要領では、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設けることが配慮事項として明確に示されました。これらの教育活動は今後の共生社会の形成、とりわけ、障害者の権利に関する条約の批准に関連して、検討がなされているインクルーシブ教育システムの構築に深く関係するものとなります。

平成23年度からは学習指導要領の本格実施期に入り、これらの教育活動の実践事例もより増えていくことが見込まれることから、全ての障害を視野に入れた事例研究を行い、これを起点として、インクルーシブ教育システムの構築に向けた望ましい配慮や指導方法を検討します。研究に当たっては、全ての障害を視野に入れた、交流及び共同学習の事例についての複数のチームによる訪問調査を行い、その結果を基に、望ましい配慮や指導方法について検討し、それらを報告書の形で整理します。

この研究によって、各障害種についての「インクルーシブ教育システムを構築するための配慮や指導法の Good Practice」を提供します。

デジタル教科書・教材の試作とガイドラインの検証 –アクセシブルなデジタル教科書の作成を目指して– 【中期特定研究（特別支援教育における ICT の活用に関する研究）】

研究期間 平成 24～25 年度

研究班 ICT・AT 班

研究代表者 金森克浩

研究分担者 梅田真理、田中良広、棟方哲弥、菊地一文、土井幸輝

概要：

本研究では、平成 23 年度に作成したデジタル教科書のガイドライン（試案）を基にしたデジタル教科書の試作を行い、その評価を行うことでガイドラインの有効性の検証と内容の改善を行います。

研究に当たっては、平成 23 年度に作成したデジタル教科書作成ガイドライン（試案）に基づいたデジタル教科書を試作します。この試作の過程で、研究協力者による機能評価を実施し、さらに、その評価結果を研究協力者との協議を通じて精査します。なお、学校での機能評価では、実際に児童生徒及び教員にデジタル教科書を試用してもらうこととし、このことを通じ、ガイドライン（試案）の有効性を評価します。こうして得られた試案についての評価結果をガイドラインの改善に反映します。

本研究により、特別なニーズに広く対応可能なデジタル教科書の具体例を示すばかりでなく、その有効性が検証されたデジタル教科書のガイドラインを提案することができると考えています。

●専門研究B

特別支援学校（視覚障害）における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究 – ICT の役割を重視しながら – 【中期特定研究（特別支援教育における ICT の活用に関する研究）】

研究期間 平成 24～25 年度

研究班 視覚班

研究代表者 金子 健

研究分担者 澤田真弓、田中良広、大内 進、土井幸輝、棟方哲弥

概要：

特別支援学校（視覚障害）は、自校における専門的で質の高い視覚障害教育を行うとともに、その専門性を基として、地域の視覚障害教育の核となり、センター的機能を発揮しながら外部支援を更に充実させていくことが求められています。

本研究では、その専門性の1つとして、特別支援学校（視覚障害）における教材・教具の整備と活用に関する実態や課題について把握し、教材・教具の充実と活用促進を図るための方策を検討するとともに、教材・教具の整備及び活用に係る情報共有の仕組みの在り方についても検討します。

これらの検討にあたっては、視覚障害教育において特に有用性が指摘されている ICT の役割を重視することとします。

特別支援学校（肢体不自由）のセンター的機能を活かした AT 活用の促進に関する研究 － ICT の役割を重視しながら－【中期特定研究（特別支援教育における ICT の活用に関する研究）】

研究期間 平成 24～25 年度
研究班 肢体不自由班
研究代表者 長沼俊夫
研究分担者 金森克浩、徳永亜希雄、齊藤由美子

概要：

特別支援学校（肢体不自由）においては、児童生徒の多様な実態に応じての AT（Assistive Technology：アシスティブ・テクノロジー 以下「AT」という。）活用はきわめて重要です。特別支援学校（肢体不自由）における AT の活用が、いっそう組織的に促進すること、更には、その知見がセンター的機能の発揮に活かされることが望まれます。

本研究では、特別支援学校（肢体不自由）の AT 活用についての知見（情報、技術など）を整理・検討するとともに、それらを基に特別支援学校のセンター的機能として、その知見を活用して、小・中学校等に在籍する肢体不自由のある児童生徒への支援において AT 活用の促進を図るための方策を検討します。

この取組に当たっては、AT の中でも e-AT（electronic and information technology based Assistive Technology：電子情報通信技術をベースにした支援技術）とよばれる ICT の役割を重視することとします。

ことばの遅れを主訴とする子どもに対する早期からの指導の充実に関する研究 －子どもの実態の整理と指導法の効果の検討－

研究期間 平成 24～25 年度
研究班 言語班
研究代表者 久保山茂樹
研究分担者 小林倫代、松村勘由、牧野泰美

概要：

「幼児ことばの教室」や「ことばの教室」ではことばの遅れを主訴とする子どもや保護者への相談・支援を行ってきています。しかし、相談・支援の対象として示される「ことばの遅れ」には、様々な要因があるとみられ、その要因と子どもの実態、指導や支援の内容・方法の関係は未だ十分に整理されていません。そこで最近進展してきている他領域での研究、たとえば LD 教育やソーシャルスキル等の指導に関する研究成果や知見を生かし、言語障害教育の対象となる子どもの早期からの指導や支援の内容・方法について検討することとします。

研究に当たっては、「幼児ことばの教室」や「ことばの教室」で指導や支援を受けていることばの遅れを主訴とする子どもの実態を把握します。また、「幼児ことばの教室」や「ことばの教室」で指導を受けていることばの遅れを主訴とする子どもについて、子どもの成長に伴ってどのような指導や支援が行われているのかを把握し、発達段階に応じた指導や支援の内容・方法について整理します。

*「ことばの教室」とは、言語障害通級指導教室・言語障害特別支援学級を指します。

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の算数科・数学科における学習上の特徴の把握と指導に関する研究〈重点推進研究〉

研究期間 平成24～25年度

研究班 自閉症班

研究代表者 小澤至賢

研究分担者 廣瀬由美子、笹森洋樹、岡本邦広、菊地一文、柳澤亜希子

概要：

平成22～23年度の研究では、教科教育の中でも、自閉症の障害特性との関連が大きい国語科について取り上げました。この研究では、国語科学習の習得状況を丁寧に把握し、習得状況にあった国語科のねらいを設定し、国語科指導内容の編成や国語科年間指導計画等の作成について検討を行い、自閉症の特性に応じた指導の在り方を示しました。このように、児童生徒の習得状況を把握した上で、授業を展開していくことは、担当教員が教科学習を進めていく上での基礎となり、数量や図形等に関する基礎的・基本的な知識・技能が生活や学習の基盤となる算数科・数学科においても同様に重要であると考えました。

自閉症のある児童生徒は、算数科・数学科の授業では、計算等が得意な子がおり、各領域や観点別の学習状況にばらつきがあることが想定されます。また、算数科・数学科の学習を進める上で、自閉症のある児童生徒は、独自の考え方で解答している場合があり、担当教員は、その考え方を理解しながら指導を進めていく必要があります。

本研究では、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の算数科・数学科における学習上の特徴を把握した上で必要な指導について検討を行うことを目的としています。

高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究 —授業を中心とした指導・支援の在り方—〈重点推進研究〉

研究期間 平成24～25年度

研究班 発達・情緒班

研究代表者 笹森洋樹

研究分担者 梅田真理、海津亜希子、小松幸恵、玉木宗久、伊藤由美、植木田潤、岡本邦広、廣瀬由美子、柘植雅義

概要：

通常の学級における発達障害等の特別な支援を必要とする子どもへの配慮や支援等については、生活全般を一人の教師が担う小学校に比べて、中学校、高等学校では教科担任制をとり、体制づくりにおいても困難な面があることから、十分な取組ができていない現状にあります。特に高等学校においては、課程や学科の違いがあり、授業の工夫だけでなく、試験に関する配慮、評価の方法、進路指導等も大きな課題となることから、小学校、中学校とは異なる対応についての検討が必要です。

高等学校には、学習に対する苦手意識が固定化し意欲がない生徒もいますが、分りやすい支援や配慮、学びやすい科目の設定、個に応じた評価方法等の工夫により、学ぶ意欲が高まり自立する力が伸びていく生徒も少なくないと思われます。これらの取組に当たっては、個への配慮・支援だけでなく、学級集団全体への働きかけも考えていく必要があります。また、思春期の課題を抱える時期でもあり、まわりとの違いに気づく自己理解が不安要因になり二次障害につながることもあります。心のケアも含めた、個別的な支援を行う場や機能（例えば通級による指導のような）の活用等についても検討が求められます。

本研究は、高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の障害特性に応じた指導・支援の在り方について、「実態把握の方法」、「授業づくり」、「教育課程の編成」、「テストやプリント、教材」、「試験実施や評価方法」、「指導体制・指導形態」、「校内支援体制」等の視点から、主に授業を中心とした指導・支援の在り方について、研究協力校等での実践を通して検討します。

●共同研究

墨字と併記可能な点字・触図作製技術を用いた視覚障害児・者用アクセシブルデザイン教材の作製

研究期間 平成 23～24 年度
研究代表者 土井幸輝
研究分担者 金森克浩、田中良広、大内 進、澤田真弓、金子 健
共同研究機関 早稲田大学

概要：

触って読む文字として点字が、空間情報やイラストの内容の理解を補助するツールとして触図が視覚障害児・者に利用されています。

一方で、点字の習得には多くの年月を要し、一つの触図を理解するためには多くの時間が必要です。そのため、点字の学習環境や触図自体の改善、触読を補助するシステムを含んだ教材の整備が必要となります。言い換えれば、学校現場や点字学習教室の点字指導員や点字学習者から新たな点字学習教材が求められているということです。

また、内容が理解し易いように配慮された触図教材も同様に現場から求められています。そこで本研究では、上述の背景を踏まえ、視覚障害児・者に対して、現場のニーズに応える点字学習教材や触図教材の作製を手掛けます。本研究を通じて、視覚障害の有無によらずに利用可能なアクセシブルな教材の普及に寄与できればと考えています。

本研究では、墨字と併記可能な無色透明インクによる点字・触図作製装置を用いて、各教材を作製します。さらに、点字や触図に加えて墨字や写真、図の内容を音声情報に置き換えて利用者に情報提供できる製作システム並びにインタフェースの開発を行うことで、視覚障害の有無に関係なく利用出来るアクセシブルデザインの理念を取り入れた教材に仕上げます。

本研究は、アクセシブルデザインの理念を取り入れた教材を作製することで、学習のアクセシブルデザイン化に寄与する研究として価値があると考えます。

弱視児童生徒の特性を踏まえた書字評価システムの開発的研究

研究期間 平成 23～24 年度
研究代表者 大内 進
共同研究機関 東京工芸大学

概要：

視覚活用が可能な弱視児童生徒にとって、漢字や図形などの2次元的なパターンの認知とそれに基づく正確な表出については大きな課題となっており、これまで様々な指導が工夫されてきています。特に漢字の書字では、バランス良く文字を表現することの苦手な児童生徒が多く見受けられ、その指導が重視されているという実態があります。そうした書字の課題は、視覚活用の困難からくる線や形の読み取りにくさに起因していると考えられますが、一方で、強度の弱視であってもバランスのとれた読みやすい文字を書ける児童生徒も育っているという現実もあります。このことから、見えにくさの影響だけでなく、細部の表現や全体のバランスへの意識が希薄なまま書字の経験だけが積み重ねられていることが、正確な文字等の2次元パターンの表出に影響していることも考えられます。本研究では、弱視児童生徒本人のこうした課題への気づきを促進するためのより客観的な評価システムの開発に取り組めます。

平成 21 年度～22 年度の共同研究（共同研究機関：東京工芸大学）において、ICT を活用した全盲児童の図形模写評価システムの開発に取り組み、視覚障害児の図形模写を客観的に評価でき、特別支援学校（視覚障害）などで簡便に利用可能なツールを作り上げてきました。本研究では、これまで全盲児の図形模写評価で積み上げてきた評価法を応用して、弱視児の手書きの文字や2次元パターンについてその大きさや形状等を客観的に評価するシステムを開発します。それを活用して実際の指導を試行し、このシステムの読みやすくなりやすい書字技能の向上を図るための支援への活用の有用性について検証します。

本システムの活用により、弱視児童生徒の文字や2次元パターンの表現の評価がより客観的になされ、弱視児童生徒が自ら意識して書字に取り組みやすくなることが期待されます。

●外部資金研究

平成24年度科研費による研究課題一覧

研究種目	採択状況	研究課題名	研究代表者	研究期間
基盤研究(B)	新規	フランス通常教育の学業不振児課程への障害児統合の実態とインクルージョンの俯瞰図	棟方 哲弥	平成24~26年度
基盤研究(C)	継続	特別支援教育におけるキャリア教育の充実を図るための研修パッケージ開発	菊地 一文	平成22~24年度
	継続	弱視児童生徒の濁音・半濁音文字の視認性の検討と弱視用フォントの開発	田中 良広	平成22~24年度
	継続	日本型人工内耳教育支援システムの構築に関する研究	原田 公人	平成22~25年度
	継続	教職員の意識と行動の特性を踏まえた校内支援体制に関する研究	植木田 潤	平成23~25年度
	新規	発達障害児への災害時支援に関する研究 -東日本大震災の被災体験調査をふまえて-	梅田 真理	平成24~26年度
	新規	2次元画像から3次元空間理解を促すための障害児教育用教材の開発と活用に関する研究	大内 進	平成24~26年度
挑戦的萌芽研究	新規	知的障害のある学習者を支援する"アニマター機能"と新しい教科書アクセシビリティ	棟方 哲弥	平成24~25年度
	新規	発達障害のある子どもの東日本大震災における実態と必要な支援に関する研究	渥美 義賢	平成24~25年度
	新規	点字学習者のための点字触読支援具の製法提案	土井 幸輝	平成24~26年度
若手研究(A)	継続	通常の学級のLD等への科学的根拠のある指導提供をめざした多層指導モデル汎用化の構築	海津亜希子	平成22~24年度
若手研究(B)	新規	発達障害児と共に学ぶ通常学級の学び方を学ぶ学習と協同学習を組合わせた指導の開発	涌井 恵	平成24~26年度
	新規	自閉症幼児の家族と教員との連携をめざしたパートナーシップの形成条件に関する研究	柳澤亜希子	平成24~27年度

■研究者一覧

所属	名前	役職	専門分野	キーワード
企画部	西 牧 謙 吾	上席総括研究員 (総合企画調整担当)	病弱虚弱、脳科学	地域支援、公衆衛生、小児科学
	笹 森 洋 樹	総括研究員 (研究計画調整担当)	発達障害、情緒障害	通級による指導、LD・ADHD・高機能自閉症等、学校・教師支援
	小 松 幸 恵	総括研究員 (行財政担当、(兼)政策連携担当)	教育政策	教育行政、教育関係法令
	棟 方 哲 弥	総括研究員 (国際調査担当)	教育工学	アシスティブ・テクノロジー、教材教具開発、国際比較
	長 沼 俊 夫	総括研究員 (調査担当)	肢体不自由	重度・重複障害、授業研究、チーム・ティーチング
	久保山 茂 樹	主任研究員 (研究計画調整担当)	言語・コミュニケーション障害	子育て支援、乳幼児、地域の支援システム
	金 子 健	主任研究員 (評価担当)	視覚障害	自立活動、触覚教材、乳幼児支援
	玉 木 宗 久	主任研究員 (評価担当)	自閉症	LD・ADHD
	齊 藤 由美子	主任研究員 (国際調査担当、(兼)教育研修・事業部事業・国際交流担当)	重度・重複障害	幼児期の教育支援、セルフ・ディターミネーション
	神 山 努	研究員 (調査担当)	知的障害	子育て支援、成人支援
教育支援部	大 内 進	(兼)部長 上席総括研究員(学校教育支援担当、(兼)企画部調査担当)	視覚障害	全盲児の学習指導、点字及び触知覚研究、イタリアの教育
	尾 崎 祐 三	上席総括研究員 (特別支援学校担当)	知的障害	学校経営、教育課程、キャリア教育
	小 林 倫 代	上席総括研究員 (教育相談担当)	言語・コミュニケーション障害	地域支援システム、保護者支援、教育相談
	藤 本 裕 人	総括研究員 (小中学校等担当)	教育政策、聴覚障害	教育課程、教科指導、自立活動、聴覚・言語障害、聾学校
	滝 川 国 芳	総括研究員 (教育センター等担当)	病弱教育	教育課程、学校支援、ICT
	田 中 良 広	総括研究員 (相談連携・支援担当)	視覚障害	教育相談、自立活動、教科指導
	小 澤 至 賢	主任研究員 (小中学校等担当)	自閉症、知的障害	コンサルテーション、地域支援システム
	徳 永 亜希雄	主任研究員 (特別支援学校担当)	肢体不自由	自立活動、ICF(国際生活機能分類)、ICF-CY(国際生活機能分類児童版)
	海 津 亜希子	主任研究員 (相談企画・日本人学校担当)	LD	アセスメント、RTI、個別の指導計画
	横 尾 俊	主任研究員 (相談連携・支援担当)	聴覚障害	教育相談、言語発達、聾学校の地域支援
	植木田 潤	研究員 (相談連携・支援担当)	発達障害、情緒障害	教育相談、精神分析的な心理療法、愛着及び関係性の障害

所属	名前	役職	専門分野	キーワード
教育 研修・ 事業部	松村 勘由	(兼)部長 上席総括研究員 (研修担当、事業・連携担当)	聴覚・言語障害	通級による指導、関係障害、コミュニケーション障害
	澤田 真弓	総括研究員 (研修企画担当)	視覚障害	自立活動、教科指導、点字指導
	原田 公人	総括研究員 (事業・国際交流担当)	聴覚障害	早期教育、人工内耳、補聴器
	工藤 傑史	総括研究員 (連携事業担当、(兼)研修支援担当)	知的障害	音楽教育、授業づくり、生涯教育支援
	大崎 博史	主任研究員 (研修企画担当)	重度・重複障害	訪問教育、医療的ケア、授業づくり
	庄司 美千代	主任研究員 (研修企画担当)	聴覚障害	早期教育、教科指導、自立活動
	熊田 華恵	主任研究員 (研修支援担当)	重度・重複障害	盲ろう、家族支援
	牧野 泰美	主任研究員 (事業・国際交流担当)	聴覚・言語障害	言語指導、言語獲得、コミュニケーション障害
	伊藤 由美	研究員 (連携事業担当)	発達障害、情緒障害	関係性障害への支援、教育相談
教育 情報部	柘植 雅義	(兼)部長 上席総括研究員 (特別支援教育総合情報担当、(兼)企画部評価・国際調査担当)	発達障害	障害児心理学、指導法、コーディネーター、教育政策、評価
	廣瀬 由美子	上席総括研究員 (発達障害教育情報担当)(兼)発達障害教育情報センター長	発達障害、情緒障害	教師支援、授業研究、特別支援学級
	金森 克浩	総括研究員 (特別支援教育情報担当、(兼)教育支援機器担当)	教育工学	アシスティブ・テクノロジー、肢体不自由、情報教育
	梅田 真理	総括研究員 (発達障害教育情報担当)	発達障害	通級による指導、LD・ADHD・高機能自閉症等、学校支援
	菊地 一文	主任研究員 (特別支援教育情報担当)	知的障害、自閉症	キャリア教育、授業づくり、教員研修
	涌井 恵	主任研究員 (発達障害教育情報担当)	発達障害、知的障害	協同学習、社会的スキル、学びのユニバーサルデザイン
	岡本 邦広	主任研究員 (発達障害情報ネットワーク担当)	発達障害	発達障害、行動問題、家族支援
	土井 幸輝	研究員 (教育支援機器担当)	福祉工学、生活支援工学、人間工学	アクセシブルデザイン、感覚代行、視覚障害支援
	柳澤 亜希子	研究員 (発達障害情報ネットワーク担当)	自閉症	障害児・者のきょうだい支援、個別の家族支援計画 (IFSP)、障害理解教育

(客員研究員)

所属	名前	役職	専門分野	キーワード
企 画 部	渥美 義賢	客員研究員	発達障害	情緒障害、児童青年精神医学、脳科学
	中澤 恵江	客員研究員	重複障害	盲ろう教育、コミュニケーションの発達、家族・専門家ネットワークづくり
	笹本 健	客員研究員	重度・重複障害	表現と身体運動、ドイツの教育